



**特定非営利活動法人**  
**ニッポン・アクティブライフ・クラブ**  
 事務局:大阪市中央区常盤町2-1-8親和ビル4階 〒540-0028  
 電話06-6941-5448(代表) FAX06-6941-5130  
 ホームページ <http://nalc.jp> **毎月1回 10日発行**  
 Eメール編集室...[kaiho@nalc.jp](mailto:kaiho@nalc.jp)

# 高畑会長が基調講演

## 文科省主催生涯学習フォーラム



文科省で基調講演をする高畑会長

かつては盛況を極めた生涯学習が曲がり角にきている。元気なシニアの参加者が激減していること、学んだことが地域社会を支える行動につながらないことへの批判が高まり、文部科学省としても生涯学習の抜本的見直しが迫られている。その答えを見出すための「生涯学習フォーラム2012」が、10月2日、霞ヶ関の文部科学省内で開かれ、冒頭、ナルク高畑会長が基調講演を行った。会長は日本が少子高齢化、IT化、グローバル化など大変革の時代を迎えている今、新しい価値観を身につけることをナルク活動の実践を踏まえつつ熱弁を振るった。高畑会長の話は自治体担当者や学者など出席者に大きな反響を呼び、生涯学習のあり方に大きな一石を投じた。ここに内容を紹介します。

### 学びが生み出すアクティブシニア

生涯学習という言葉は比較的新しく生まれたもので、1965年にユネスコが決議をして世界各国に奨励したことに起因しています。しかし国によってその採り上げ方が異なっています。欧米では成人対象の職業教育となり、日本では人間形成や余暇対策に重点が置かれ、やがて1985年、文部省が補助金を出して都道府県に高齢者教育として推進させました。そして老人大学花盛りの時代へとなっていました。

「濡れ落ち葉」という言葉が一時流行した。1990年に入るとバブルの崩壊が始まるや、財政的に窮乏になった政府は、次第に補助金を打ち切らざるを得ない状況に陥りました。それを機に老人大学を廃止する自治体と、単独事業で熱心に続ける自治体との温度差が目立つようになり、また一方では、民間のカルチャーセンターがどんどん生まれ、大学の公開講座や地域でのサークル活動が活発に行われるようになりまし

た。このように環境が変わってきますと、旧態依然として続けられていた「教養を高め、余暇を楽しむ」カリキュラムや「学んでも行わない」生涯学習のあり方に、強い批判が注がれるようになっています。大変革の時代にふさわしい生涯学習とは、

① 少子高齢化  
 ② IT化  
 ③ グローバル化

先取りして解決を図っていくことが大切です。そのために必要なのは、人間として持つべき「新しい価値観の確立」です。生涯学習はこの新しい価値観を身につけるようなカリキュラムに抜本的に変えるべきだと考えます。

さらに「具体的に何を学ばなければならないか」と問われれば、私は新渡戸稲造博士の「武士道」を学ぶようお勧めします。何故なら今日の大変革の時代に匹敵するのは明治維新です。このように環境が変わってきますと、旧態依然として続けられていた「教養を高め、余暇を楽しむ」カリキュラムや「学んでも行わない」生涯学習のあり方に、強い批判が注がれるようになっています。



文科省主催「生涯学習フォーラム2012」の会場風景

かつ深刻さをあらわに進行し、家族・親族・地域の絆が崩壊してしまっています。これに代わって代わるのが「人に尽くす、社会に尽くす」共通の価値観を持つた人たちが集まって創る「NPOの絆」です。

1999年、国連は国際高齢者年に当たり、①自立②自己実現③社会参加④ケア⑤尊厳、と言った「高齢者5原則」を掲げました。この5原則の実行には高齢者NPO、ボランティアNPOが中心になるでしょう。日本では少子高齢化対策の一環として、60歳から支給されていた厚生年金が基礎年金だけでなく報酬比例部分も含めて、まるごと65歳からしか貰えなくなりました。

当然のことですが、雇用者は65歳まで働けるようにしなければなりません。そうなるなら定年延長が雇用延長ではなく、アメリカで実現されている「年齢差別禁止法」を日本でも作るべきです。人生百年時代に入りました。年を重ねたからと言って一律に身体が弱くなった、思考力が衰えるものではないと、努力する人、足りない人との差が大きくなるのです。不足する若者に代わって、元気な高齢者が社会の一部を担って働いている姿を、日本は世界中にモデルとして示さなければなりません。いま若い国と言われるアメリカも、そして中国も間もなく少子高齢化社会に入ります。その時の各国のあり方を日本が示すことになりま



季の輝き

クリスマスの街飾り

写真・隈井九州男

そうこうしているうちに、世の中は大変革の時代に入りま

した。変革の課題は、

少子高齢化はNPOの絆で

日本は世界の中で高齢化が最も早く、

私は1992年に松下電器(現パナソニック)を役員定年で退職しました。入社した1950年には人生50年だったのが、定年時には人生80年時代になっていました。「濡れ落ち葉」として、あられのないように、あと20年、前向きにアクティブに、どう生きれば良いかを真剣に考えました。結論は「人に尽くす」、

「もう家族、子供に養ってもらった時代ではない。しかし、自立して生きるには地域で心を許せ助け合って生き抜く友が必要。同じ志を持つシニアを集めてボランティア団体を作り活動する中から、真の友が生まれる」と考えて、2年後にナルクを創りました。

18年たった今、3万人の全国組織に成長しました。男女半々の会員、地域ごとに拠点(支部)を作り、必ず事務所を置いて、コーディネーターを養成していき、力をいれていくのが「孤独死を出さない」という活動です。来年は団塊の世代の大量入会を期待しています。(了)



ナルク設立当初、「時間預託」に魅力を感じて入会したのに、お呼びがかかれない」という苦情に悩んで、本部が「市・町の高齢福祉課や社協のボランティアセンターに要介護者とその家族の紹介をしよう」という営業活動だった。介護保険がなかった頃だったので多様な依頼者が殺到した。その一人ひとりに「コーディネーターがナルクの理念、時間預託の仕組みを説明し、先ず会員になってもらい、点数が貯まっていらない人は500円程度の寄付金を求めた。同時にナルクは「全員無償であり、家族に接するのと同じ気持ちでお世話にあたりたい。安い家政婦扱いはされるのならばお断りする」と説いた。高槻・島本拠点では若いお母さん達の最も強いニーズである乳幼児の預かりを時間預託で受け、お母さん達も高齢会員の支援をする側になり、双方の助け合いに成功している。そこには市の施設を利用するなどの知恵が働いているのを感じることしきり。(高畑敬一)



# 東日本大震災支援 ナルクの絆は今

語り部の生々しい話に驚きと怖さを体感

かずさ拠点

小野寺優子

東日本大震災で発生した津波の被害や教訓を後世に伝えるための「いいおか津波を語り継ぐ会」を訪ねて、語り部から震災体験談を聞き、ヤマサ醤油工場見学と、屏風ヶ浦を視察する「旭市支援交流研修会」に参加しました。

死者13名、行方不明2名と被害の大きかった旭市飯岡。飯岡刑部岬展望館で、震災経験者で「いいおか津波を語り継ぐ会」会長の仲條富夫氏のお話を聞きました。

「自転車で海岸道路を自宅に向かって走っていたところを魔物のような真っ黒の波が襲われた。津波が魚屋のサツシの部に引っかけ、ようやく水から顔を上げ、意識が戻り生かされる。助かった」と、恐怖の一部を語られました。

## ちよつと聞いて

コーディネーターのつぶやき



今春、半年前にナルクを退会された方からメールがありました。「昨年の12月に足を骨折して入院、3月末に退院したが、朝、夕30分間の犬の散歩をお願いしたい」との内容でした。リハビリの通院は福祉タクシーを利用して

「自転車で海岸道路を自宅に向かって走っていたところを魔物のような真っ黒の波が襲われた。津波が魚屋のサツシの部に引っかけ、ようやく水から顔を上げ、意識が戻り生かされる。助かった」と、恐怖の一部を語られました。

「被災者の皆様の前向きに頑張る姿に感動」



なかなかはかどらぬガレキ撤去作業

配された。飯設の集會場で、ハンドマツサージをさせていた。きながら、水の怖さ、山の怖さを聞かせていただきました。そんな環境の中で、皆さんは大違い。実際に現場を見て、1年半過ぎてもこの有様。まどどこを見て「ああお気の毒に」、この言葉しか出てきませんでした。どれだけ怖かったでしょうね。

「被災者の皆様の前向きに頑張る姿に感動」

「被災者の皆様の前向きに頑張る姿に感動」

「被災者の皆様の前向きに頑張る姿に感動」

「被災者の皆様の前向きに頑張る姿に感動」

「被災者の皆様の前向きに頑張る姿に感動」

「被災者の皆様の前向きに頑張る姿に感動」

## 遠距離介助のご報告

東京拠点 筑摩孝雄

北海道の某拠点から、足立区「竹の塚」駅から千葉県木更津市の中央公民館まで付き添いの依頼を受けました。

利用者目は目の不自由な女性会員で、卓球の練習に行きたいとのことでした。東京から地方の拠点にすれば遠距離介助をお願いしておりますので、今回はそのお返しで頑張ろうと引き受けました。

朝7時半に家を出て、木更津の中央公民館に着いたのは12時半でした。昨年の大会で知り合ったお仲間が大歓迎で出迎えてくれました。

早速、練習を始められました。盲人用卓球とは、ネットを15センチほど高く上げ、その下を球を転がすのです。球の中には何粒かの砂が入っていて、その音を聞いて打ち合っています。

5時にバスで湾岸橋を通って、品川から浅草を抜けて、竹の塚まで帰ってきました。

この女性からは大変感謝され喜ばれました。

## 高齢者転倒防止10カ条

- 1 足元の小さな段差に要注意
- 2 外出は時間に余裕をもつて
- 3 悪天候、夜間の外出に注意
- 4 立ち上がり、急な動きは目眩のもと
- 5 人混みやバス電車ではあわてない
- 6 階段は必ず手すりを握って
- 7 杖を使う(転ばぬ先の杖)
- 8 良い履き物は身を(毎日新聞より抜粋)

「転倒」が原因に「転倒」がある。しかも、転ぶ場所は自宅がほとんど。「お年寄りは転ぶと大けがになりやすく、回復も遅いため、結果として寝たきりになる人が多

い。風呂場だと溺死に繋がったり、台所の火に触れて、大やけどをする場合もあります。転ばない工夫は命を守る上で大切なことです」と石神重信院長は語っています。

「被災者の皆様の前向きに頑張る姿に感動」

## 文楽初春公演

1月3日(木)・1月25日(金)・15日休演

- 第1部(午前11時開演) 寿式三番叟
- 義経千本桜 すしやの段
- 増補大江山 戻り橋の段
- 第2部(午後4時開演) 団子売
- ひらかな盛衰記 松右衛門内の段/逆櫓の段
- 本朝廿四孝 十種番の段/奥庭狐火の段

はじめの方に「親しみやすい演目ばかりです。5名以上の団体見学は本部奥田までご連絡ください。会長との夕食会、技芸員による解説などをセットします。拠点備え付けの用紙に記入すれば、奉仕点数利用で1等席5800円が4800円になります。

「被災者の皆様の前向きに頑張る姿に感動」

「被災者の皆様の前向きに頑張る姿に感動」

「被災者の皆様の前向きに頑張る姿に感動」

## 子育て支援事業各地の報告

【小規模研修会】

埼玉西拠点(72名) 6月10日

仲川狭山市長が子育て支援の重要性を強調。子育て支援カウンセラー山本講師より子どもに甘える心と自立する心のあり様を、NPO法人ファザリングジャパンの吉田講師から子どもにイライラしたときの対応等子どもとの関わり方を学びました。

「被災者の皆様の前向きに頑張る姿に感動」



栃木拠点の小規模研修会場

【大規模研修会】(今年は6地区で開催) 北河内地区 守口・門真拠点(53名) 9月15日

基調講演は本田講師の「親子のコミュニケーション」。ワークショップは辻上講師の「身の回りで遊ぶペープサート」と「心身リフレッシュヨガ」を体験しました。

「被災者の皆様の前向きに頑張る姿に感動」

【豊中・池田拠点(59名) 10月4日】

原田講師(大阪人間科学大学副学長)「思春期から花ひらく子育てを目指して」、岩城講師(KID・Sいわき・ばふ代表)「笑って学ぶ子育てのコツ」。拠点として社協などと協力して、子育ては社会全体で行うことを理解し、身近なところから実践していくことを確認しました。

「被災者の皆様の前向きに頑張る姿に感動」

